

今日からアドベント（降臨節、待降節）に入りました。人類の救い主として世に来られた主イエス・キリストのご降誕をともに喜び祝い、また終わりの日に再び戻って来られ、救いを完成される再臨の主を待ち望む時です。今年のアドベントが、お一人ひとりにとって例年にも増して恵み多い時となりますよう心から祈ります。

Today is the first day of Advent. It is the time to celebrate the birth of the Lord Jesus Christ who came into this world as the Savior, and also to wait upon His second coming when He completes the salvation. I pray this Advent season will be full of blessing for each one of you.

さて、アドベント第一週目の今日は、「主イエスを受け入れる」ということについてともに考えてみたいと思います。11節、「この方はご自分のくにに來られたのに、ご自分の民は受け入れなかった」。ここに記されている「この方」とは、主イエスのことです。そして、「ご自分の民」とは直接的にはイスラエルの民を指しますが、広い意味で捉えると「すべての人」ということができます。およそ二千年前に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになった主イエスは神のひとり子のキリストです。この世はすべてこの方によって造られました。しかし、残念なことに、この世はこの方のことを知らず、主が世に来られた時に彼を受け入れませんでした。

On this first Sunday of Advent, we'd like to think all together about "receiving Jesus." Verse 11 says, "He came to that which was His own, but His own did not receive Him." The word "He" is the Lord Jesus. And "His own" refers to the people of Israel here but in a wide sense we could say it's "all people." The Lord Jesus, who was born in Bethlehem of Judea about 2,000 years ago, is the Christ, God's only Son. This world was created by Him. But sadly, this world did not know Him, and did not accept Him when He came into the world.

しかし、すべての人が主を受け入れなかったわけではありません。12節に「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」とあるように、そこには主イエスを受け入れた人々もいるのです。それが主の弟子たちであり、歴代の聖徒たちであり、今日生きる私たちクリスチャンです。そして、これから主を受け入れる人々もそうです。

However, not all people refused Him. As you can see in verse 12, "Yet to all who did receive Him, to those who believed in His name, He gave the right to become children of God," there are people who accept Jesus. They are His disciples, great followers in the past, and we Christians living today, as well as those who will accept Him in the future.

神様は、御子イエスを受け入れた人々には神の子どもとなる特権をお与えになりました。このことを指して、私たちは「救い」といいますが、御子イエスをキリスト（救い主）として受け入れる者はみな「神の子ども」とされるのです。つまり、御子イエスと同じように、神の子どもとしての身分を受けるのです。神様はその神の子どもとされた者たちが、神の子に相応しく歩むことを望んでおられます。もはや以前のように神を知らない者としてではなく、天の神を父とし、御子イエスを長男として知る者として、この世にあって生きることを期待しておられるのです。

God gave the right to become His children to those who received His Son Jesus. We call this "salvation", which means those who receive Jesus as Christ the Savior will become "God's children". In other words, we earn a status as God's child, like Jesus. God wants those who believed to walk like His children. He expects us to live in this world, not like those who don't know Him, but as people who know God as the Father and Jesus as the Son.

聖書では、このことを養子縁組に例えて説明しています。ある子どもが新しい両親のもとに養子として迎えられます。必要な手続きが成され、正式にその家族の一員としての歩みがスタートします。しかし、その子にはこれまでに身についた生活習慣や性質などがあります。それらは新しい環境とともに自然に変わっていくものなのでしょうか？身分が変わったからといって、急にすべてが変わるわけではありません。新しい家族とともに生活をし、多くの愛を受け、家庭のルールなどを教えられながら、時間をかけて徐々にその家の者となっていくのではないのでしょうか？

The Bible explains this as an adoption to a family. Let's say a child is adopted by new parents. Necessary paperwork is done and he/she starts officially as a new member of the family. But the child still has old habits and natures. Do those change in a new environment? Change in a status doesn't change everything instantly. The child gradually becomes part of the real family by living with them, receiving love from them, and being taught family rules.

私たちも同じです。クリスチャンは主イエスを受け入れ、神の子どもとしての身分を受けました。しかし、だからといって、神の子どもとして相応しい性質や習慣をその日のうちに身につけるわけではありません。日ごとに主の恵みを受けることによって、少しずつ造りかえられていく必要があるのです。では、どのようにして主の恵みは受けられるのでしょうか？主イエスご自身を日々自分のうちに受け入れることによってです。すでに救い主として心にお迎えした主イエスを、日ごと意識的に心にお迎えすることによって、主の恵みに満たしていただくのです。この「日ごと」が続いていく時に、私たちは恵みのうちに成長していくのではないのでしょうか。

We are in the same situation. Christians accepted Jesus and received the status as God's children. That doesn't mean we achieve Christ-like characters all in one day. We need to be changed little by little by receiving God's grace. Then how can we receive God's grace? -- By receiving Jesus in you. You've already accepted Jesus as the Savior, but by welcoming Him each day to your heart and in your consciousness, you will be filled by His grace. By keeping this "each day," we will grow in grace.

ルカの福音書2章6-7節を開いて下さい。そこには主イエスの降誕の様子が記されています。「ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである」。主イエスが降誕される時、ベツレヘムの宿屋にはヨセフとマリヤのいる場所はありませんでした。ですから、主イエスは飼葉おけに寝かせられたのです。飼葉おけということは、そこは家畜小屋でした。

Please open Luke 2:6-7. "While they were there, the time came for the baby to be born, and she gave birth to her firstborn, a son. She wrapped him in cloths and placed him in a manger, because there was no guest room available for them". When Jesus was born, there was no room for Joseph and Mary to stay in Bethlehem. So baby Jesus was laid in a manger in a stable.

神の御子がこの世に来られたのに、そこには彼を受け入れる場所はありませんでした。なぜでしょうか？それはマリヤがその身に宿している子が神のキリストであることを人々が知らなかったからです。また、この時、全国的に住民登録をせよという勅令がローマ皇帝から出されていたので、ヨセフとマリヤもそのためにナザレからベツレヘムに旅したように、どこの宿屋も旅人で混み合っていたのです。しかし、理由が何であるにしろ、神の御子が世に来られたのですから、そこにはちゃんと場所が整えられ、人々は喜んで彼をお迎えしたというのが本来なら私たちがイメージするところではないのでしょうか？しかし、現実には主イエスを受け入れる場所はなく、主は家畜小屋におられたのです。

Even when the Son of God came into the world there was no place to receive Him. Why? Because people did not know that the baby which Mary was carrying was the Christ, the Son of God. At this time, Caesar Augustus issued a decree that a census should be taken of the entire Roman world and everyone went to their own town to register, so Joseph and Mary traveled from Nazareth in Galilee to Bethlehem in Judea. Therefore, every guest room was full. But even so, don't we imagine some kind of a nicely arranged place to stay and everyone welcome with joy if a Son of God comes into the world? However, the reality was, there was no place to accept Him, so He was placed in a stable.

このことを思う時に、私たちも日々の忙しさの中で主イエスを心のどこか隅に追いやってしまうということはないのでしょうか？このクリスマスのシーズンは何かと忙しい時期です。クリスマスカードの作成があり、参加するイベントがあり、プレゼントを買いに出かけたりといろいろです。学生にとっては学期末のテストがありますし、お仕事をされている方も何かとお忙しいのではないかと思います。「忙しい」という言葉が心を亡くすと書くように、この忙しい時期に私たちの心は容易に平安を亡くしてしまいます。

When we think about this, it reminds us that sometimes we set Jesus aside to the corner of our hearts. Christmas time is always a busy season. Sending out Christmas cards, various events, buying presents... students have finals, a lot to do at workplaces too. As in Chinese (kanji) character "busy (isogashii)" writes "lose heart", it's easy to lose peace in this busy season.

しかし、その歩みがどれだけ多忙であったとしても、私たちは日ごと心に主イエスを受け入れることによって、その恵みに留まる者とさせていただきます。日ごとに、そして、機会あるごとに「主よ、あなたを私の心にお迎えします。どうぞ心の真ん中にいて、恵みをもって私を満たし、導いてください」と祈ることによって、クリスマスの意味である「キリスト礼拝」を、私たちの生活の中心とさせていただきますと思うのです。主を受け入れるところに主の恵みも満ちあふれます。

But even though our life is busy, we want to abide in His grace by receiving Jesus into our hearts each day. Each day, or each moment, by praying, “Lord, I will accept you in my heart... Please remain in the center of my heart and fill me with your grace and lead me,” the center of our lives should be “worshipping Christ,” which is the real meaning of Christmas. God’s grace will be filled where Jesus is accepted.



19世紀を代表するイギリスの著名な説教者チャールズ・スポルジョンはこのように言っています。「信仰の生涯は、『受け入れる』ということばで代表される…それは単純に賜物を受け入れることである」と。私たちの心が主イエスではなく、何か他のものでいっぱいになる時は、私たちは主イエスを受け入れることはできません。彼の恵みをそのまま受け取ることができないのです。ですから、まず自分自身を空にし、そこに主イエスを受け入れるなら、主は豊かに恵みを注いで下さるのです。そして、その恵みを通して主は、多忙の中にある私たちに平安と喜びを与えて下さるのです。

Charles H. Spurgeon (1834-92), England's best-known preacher in the 19th century, said, “The life of faith is represented as receiving – an act that implies the very opposite of anything like merit. It is simply the acceptance of a gift”. When our hearts are full of not Jesus but something else, we cannot accept Jesus. We cannot receive His grace simply as is. When we empty ourselves and receive Jesus, then the Lord pours His grace abundantly.



最後に一つのお話をします。アメリカのある村に、白い十字架の立つ教会がありました。村の人たちの最大の楽しみは、クリスマスでした。なかでも「キリスト降誕劇」は、村全体で取り組む最大の行事でした。その年は、子ども達が「キリスト降誕劇」を担当することになっていましたので、教会学校の先生たちは、村中の子どもたちを集めて、役割を決めました。まずマリヤが決まり、ヨセフ、星たちや羊たち、東方の博士たちも次々に決められました。

I will end with one story: In a little village in the United States there was a church with a white cross. Everyone in the village loved Christmas and the “Nativity play” was one of the biggest events the whole village gets involved. That year children were to perform the play so the Church School teachers gathered all the children in the village and assigned the roles. First Mary, then Joseph, and the stars, the sheep, and the wise men, and so on.

ところが後になって、一人の少年にだけ、役をあげていなかったことに先生たちは気づきました。その少年は知恵遅れでした。先生たちは急いで新しい役を作りました。それは主イエスが生まれることになる、家畜小屋のある宿屋の主人の役で、マリヤとヨセフが来た時に「だめだ。部屋はない」と言って、後ろにある家畜小屋を指さす役でした。

Later they realized they didn’t give a role to one boy. He was mentally retarded. The teachers hurried and made his part. It was the master of the inn who tells Mary and Joseph, “No, there’s no room!” and points at the stable in the back.

役をもらえることを聞いて、その男の子は大喜びでした。来る日も来る日も「だめだ！部屋はない」と言って、手を高く上げ、それから家畜小屋を指さす練習を一生懸命繰り返しました。いよいよクリスマスの日になりました。村中の人々が教会堂いっぱいに集まりました。楽しいクリスマスのプログラムが進んで、いよいよ最後の一番、子どもたちによる「キリスト降誕劇」が始まりました。劇は順調に進み、いよいよ問題の場所となったのです。

The boy was delighted to get his part. Every day he practiced raising his hand, “No! There’s no room!” and pointing at the stable - over and over. Then Christmas Day came. All the villagers gathered at the church. The program went on and finally, the Nativity play started. The play started off fine, and then the scene came.



日の沈んだベツレヘムに、ヨセフとマリヤがやっとの思いでたどり着きました。そして、あの少年が立っている、村はずれの最後の宿屋にやってきました。「すみません、私たちが泊めてください」。いよいよ男の子の出番です。教会学校の先生たちも、彼の両親も、心の中で彼がちゃんとできるように祈りました。男の子は大きな声で「だめだ！部屋はない」と言ったのです。そして、高く手を上げて、家畜小屋をしっかりと指さしたのです。

Joseph and Mary arrived in Bethlehem after dark. They came to the inn where the boy was standing. “Please, let us stay” – now it’s his part. All the teachers and his parents prayed that he would say his line well. The boy said in a loud voice, “No! There is no room!” he raised his hand, and pointed at the stable.

しかし、長旅で疲れたヨセフとマリヤは肩を落とし、重たい足を引きずるようにして、家畜小屋に向かって歩いて行ったその後ろ姿をじっと見つめていた男の子の目に、みるみる涙があふれたのです。そして、声をあげて泣き出した男の子は、走って行ってヨセフにしがみつくと、「ヨセフさん。馬小屋に行かないで！僕の家に来て！僕の家に来て！」と言ったのです。劇は中断し、教会学校の先生が舞台上に飛び上がって、泣いてヨセフにしがみついている彼を引き離しました。劇はめちゃくちゃになってしまいました。しかし、長い村の歴史の中で、これほど感動を呼んだ「キリスト降誕劇」は、後にも先にもなかったということです。

But as the boy watched exhausted Joseph and Mary dragged themselves to the stable with disappointment, his eyes were filled with tears and he ran crying to Joseph, clinging to him, “Joseph, please don’t go to the stable! Come to my house! Come to my house!” The play was interrupted and the teachers ran up to the stage to pull the screaming boy from Joseph. Of course the play was messed up but there was no Nativity play so touching as this in the long history of this village.

今日、あなたの心には、主イエスを受け入れる場所がありますか？すでに主を受け入れているという方は、主イエスは今どこにおられますか？あなたの心の真ん中におられますか？それとも、どこか隅っこのほうに追いやられているのでしょうか？今日も主イエスは私たちに恵みを与え、私たちと共に歩むことを望んでおられます。そのために喜んでご自分を受け入れる人を探しておられるのです。今、あなたは喜びをもって主を受け入れていますか？主のおられるところに、主の恵みも臨みます。そのことを心に留めつつ、今週も日ごと主を受け入れる者であろうではありませんか。

Today, is there a room for Jesus in your heart? For those of you who already received Jesus in you, where is He? Is He at the center of your heart? Or is He chased away somewhere in the corner of your heart? Even today Jesus wants to pour His grace on us and walk with us. He is looking for someone who receives Him with joy. Are you receiving Jesus with gladness at this moment? Jesus’ grace abides wherever He is. Let us keep that in mind and receive Jesus each new day this week.